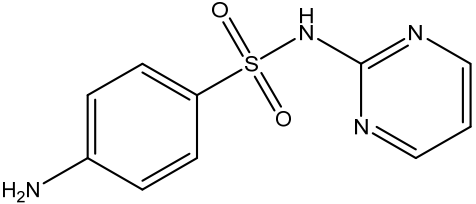


3	CAS 番号：68-35-9	物質名：スルファジアジン
化審法官報公示整理番号： 化管法政令番号： 分子式：C ₁₀ H ₁₀ N ₄ O ₂ S 構造式： 分子量：250.28		
		
<p>1. 物質に関する基本的事項</p> <p>本物質の水溶解度は 77.0 mg/L(25℃) で、分配係数(1-オクターノール/水) (log Kow)は-0.09、蒸気圧は 5.26×10⁻⁹ mmHg (=7.02×10⁻⁷ Pa) (25℃) (計算値)である。</p> <p>本物質の主な用途は、医薬 (化膿性疾患用サルファ剤)、動物薬 (抗菌剤) とされている。また、本物質のヒトへの医薬品としての生産量等の情報は得られなかった。本物質の 2018 年度における動物用医薬品としての販売量 (原末換算) は、0.047 t であった。</p> <p>-----</p> <p>2. 曝露評価</p> <p>本物質は、化学物質排出把握管理促進法 (化管法) 第一種指定化学物質ではないため、排出量及び移動量は得られなかった。Mackay-Type Level III Fugacity Model により媒体別分配割合の予測を行った結果、大気、水域、土壌に等量排出された場合、土壌に分配される割合が多かった。</p> <p>水生生物に対する曝露を示す予測環境中濃度 (PEC) は、公共用水域の淡水域では 0.029 µg/L 程度、同海水域では概ね 0.005 µg/L 未満となった。</p> <p>-----</p> <p>3. 生態リスクの初期評価</p> <p>急性毒性値 (スルファジアジン当たり) は、藻類等では珪藻類 <i>Phaeodactylum tricorutum</i> の生長阻害における 96 時間 EC₅₀ 110 µg/L、甲殻類等ではオオミジンコ <i>Daphnia magna</i> の遊泳阻害における 48 時間 EC₅₀ 25,000 µg/L、魚類ではメダカ <i>Oryzias latipes</i> の 96 時間 LC₅₀ 96,000 µg/L 超、その他の生物ではナミウズムシ <i>Dugesia gonoccephala</i> 他の遊泳阻害における 96 時間 EC₅₀ 50,000 µg/L 超が信頼できる知見として得られたためアセスメント係数 100 を適用し、急性毒性値に基づく予測無影響濃度 (PNEC) 1.1µg/L が得られた。</p> <p>慢性毒性値 (スルファジアジン当たり) は、藻類等では珪藻類 <i>P. tricorutum</i> の生長阻害における 96 時間 NOEC 10 µg/L が信頼できる知見として得られたためアセスメント係数 100 を適用し、慢性毒性値に基づく PNEC 0.1 µg/L が得られた。</p> <p>本物質の PNEC は、藻類等の慢性毒性値から得られた 0.1 µg/L を採用した。</p> <p>PEC/PNEC 比は淡水域で 0.3、海水域では 0.05 未満であった。<u>生態リスクの判定としては、情報収集に努める必要があると考えられる。総合的な判定としても同様である。</u></p> <p>本物質については、<u>排出量の多い発生源周辺の環境中濃度の情報を充実させる必要があると考えられる。また、甲殻類や魚類の慢性毒性値に関する情報収集に努める必要があると考えられる。</u></p>		

有害性評価 (PNEC の根拠)			アセスメント係数	予測無影響濃度 PNEC (µg/L)	曝露評価		PEC/PNEC 比	総合的な判定
生物種	急性・慢性の別	エンドポイント			水域	予測環境中濃度 PEC (µg/L)		
藻類等珪藻類	慢性	NOEC 生長阻害	100	0.1	淡水	0.029	0.3	▲
					海水	<0.005	<0.05	

4. 結論

	結論	判定
生態リスク	更なる関連情報の収集に努める必要がある	▲

[リスクの判定] ○:現時点では更なる作業の必要性は低い、▲:更なる関連情報の収集に努める必要がある、
 ■:詳細な評価を行う候補、×:現時点ではリスクの判定はできない。